

製品名: IK ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12460**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	66kDa

抗原情報

遺伝子名	IK
別名	IK; RED; RER; Protein Red; Cytokine IK; IK factor; Protein RER
遺伝子 ID	3550.0
SwissProt ID	Q13123
免疫原	抗血清はヒト RED 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 508-557

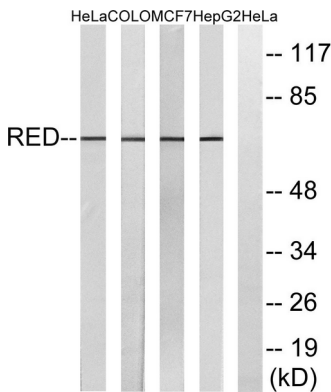
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、RED リピート（アルギニン、グルタミン酸、アスパラギン酸残基の繰り返し配列）によって同定されました。このタンパク質は核小体を除く核内に点状に局在します。機能は不明です。この遺伝子は 5 番染色体に

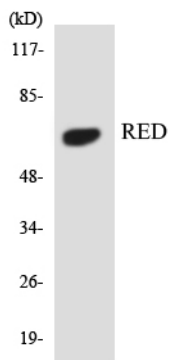
マッピングされますが、2番染色体にも偽遺伝子が存在する可能性があります。[RefSeq 提供、2008年7月],注意:当初 (PubMed:7970704) は、恒常的な MHC クラス II 抗原発現の負の調節経路に関するサイトカインである IK 因子であると考えられていました。発達段階: 胎児組織と成体組織で同程度の発現レベルを示します。機能: 不明。クロマチンに結合する可能性があります。PTM:DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による)。類似性:RED ファミリーに属する。組織特異性:普遍的。

研究分野

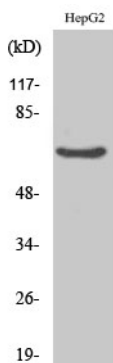
画像データ



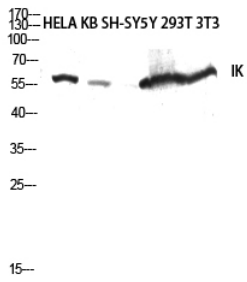
HepG2、MCF-7、COLO、および HeLa 細胞のライセートを RED 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



RED 抗体を使用した 293 細胞の溶解物のウエスタン ブロット分析。



1: 2000 に希釈した IK ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタンブロット分析。



IK抗体を用いた HELA KB SH-SY5Y 293T 3T3 の溶解のウェスタンブロット解析。抗体は 1:2000 に希釈した。